

世界同時不況と鉱工業指数～その２～

各都道府県が公表する平成21年5月分の鉱工業指数が出揃った。

前回、3月までのデータをもとに、大分県の生産指数の特徴として、世界同時不況に陥る前の水準が高かっただけに落ち込みも激しかったけれども回復のテンポも速く、3月時点では全国で2番目の上昇率を記録した、と紹介した。

その後も4月、5月と上昇を続け、5月時点の生産指数は88.6となり、急落直前の平成20年7～9月平均（110.0）に対して、80.5%の水準まで回復した。

各都道府県の生産指数（平成17年＝100）を比較したものが図1である。

大分県の生産指数は平成20年9月まで、他の都道府県と比較しても上位にあった。それが、10月以降の下降過程では急角度で低下し、12月時点では逆に全国下位まで落ちた。しかしながら、多くの都道府県がさらに低下し続けた2月には下げ止まりの気配を見せ、3月からは急速な上昇に転じ、5月時点では、ほぼ全国上位まで回復した。

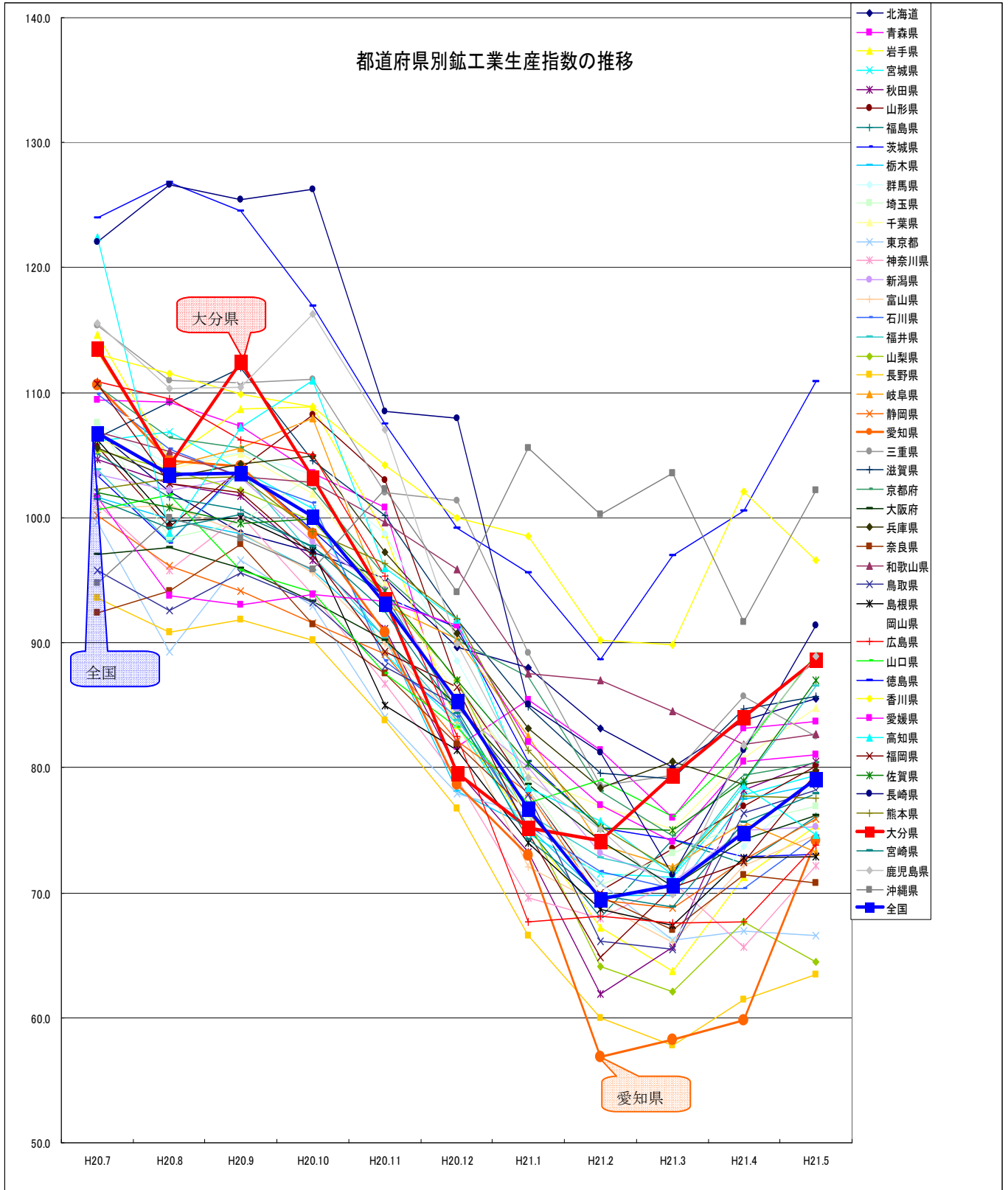
最も生産指数が低かった平成21年2月（74.2）からの上昇率は19.4%で、全国の13.8%を上回った。

なお、平成20年7～9月平均（106.4）に対して2月の指数が全都道府県の中で最大の46.5%も低下した愛知県は、5月までの上昇率も30.4%と最大となった。

その低下にも上昇にも輸送用機械工業が大きく寄与しており、同県の製造業の中で当該業種が大きなウェイトを占めていることが分かる。（図3）

図2で大分県の業種別寄与度のグラフをみると、低下時にも上昇時にもほぼ全ての業種が同じ方向をたどっている。特に、電子部品・デバイス工業と情報通信機械工業の寄与度が大きかった。

図 1



資料: 経済産業省・各都道府県統計主管課

図2 大分県の業種別寄与度

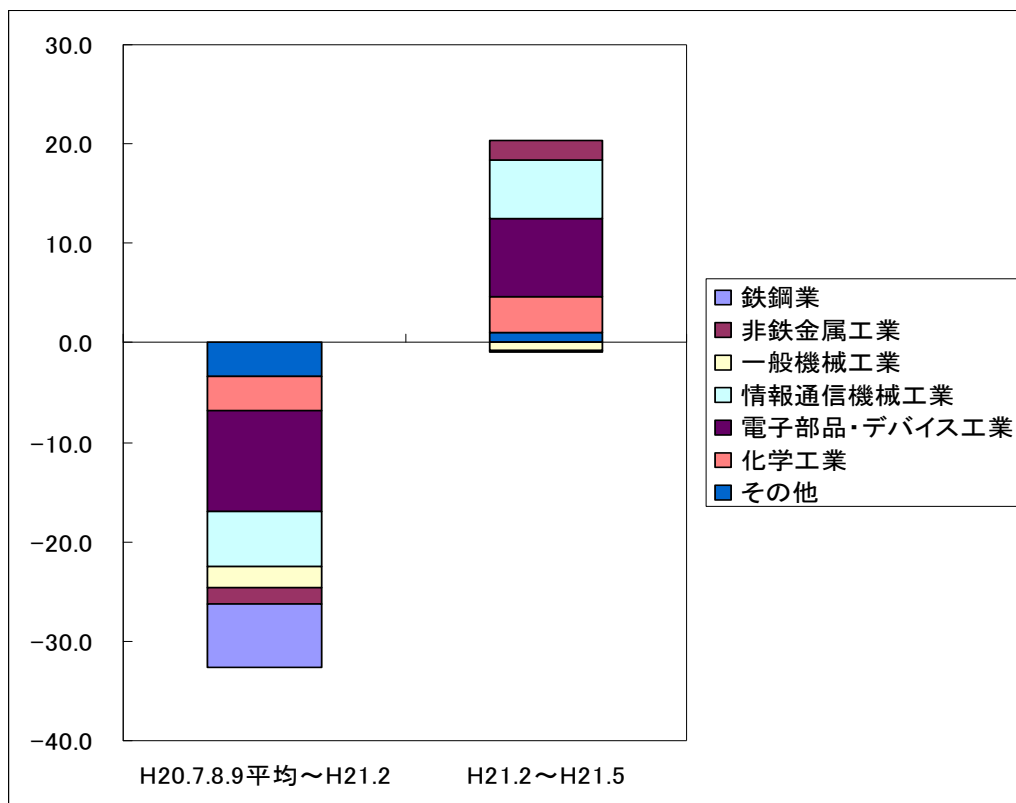


図3 愛知県の業種別寄与度

